

2017年度
世 界 史
(問 題)

< H29110018 >

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何がを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

7世紀にアラビア半島で生まれたイスラーム教は、(A)正統カリフ時代やウマイヤ朝時代のムスリム軍による征服活動を経て、8世紀初めまでに西アジアや北アフリカ、イベリア半島に広まった。多くのアラブ人がウマイヤ朝の征服地に支配者として移住し、アラブ人イスラーム教徒を中心とする帝国が生まれた。750年に建国されたアッバース朝イスラーム帝国は、宗教的一体性を重視しつつ中央集権化を進め、(B)ハールーン・アッラシードの治世下(786～809年)で最盛期を迎えた。しかし、その死後から帝国内のエジプトやイランに(C)王朝が次々に成立し、アッバース朝カリフの主権が及ぶ範囲は(D)しだいに縮小した。他方で、(E)各地でイスラーム文化が根付き、洗練された。

イスラーム帝国の広がりと呼応して、ムスリム商人は8世紀から12世紀にかけて陸と海に広大な交易圏を築いた。まず、陸路では、(F)ビザンツ帝国、(G)西アフリカ、中央アジアにのびる幹線道路がこれらの地域をアッバース朝の帝都バグダードに結びつけ、バグダードは商人たちによる国際的な交易網の中心として栄えた。

海路では、地中海、紅海とインド洋がムスリム商人の活躍の場となった。8世紀以降イスラーム王朝に統治されたイベリア半島では、地中海交易によって商業が活性化した。紅海・インド洋交易の発展に伴って、(H)アフリカ大陸東海岸の港市にアラビア半島やイラン出身のムスリム商人が移住した。また、(I)バスラやシーラーフなどのペルシア湾岸の港市を拠点として、ペルシア湾から中国に至る海のネットワークが形成された。

問1 下線部 (A) について、次のうち、これらの時代のムスリム軍によって行われた征服活動として適切でないものを1つ選べ。

- a. トレドの征服 b. ニハーヴァンドの戦い
c. トゥール・ボワティエ間の戦い d. メッカの征服

問2 下線部 (B) について、ウマイヤ朝とその征服地に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ハラージュは、ウマイヤ朝末期からアラブ人ムスリムにも課せられるようになった。
b. 非ムスリム先住民の改宗は、マワリーと呼ばれるアラブ人有力者により保証された。
c. 征服地の非ムスリム先住民は、イスラーム教に改宗すればジズヤを免除された。
d. スンナ派では、イマームがイスラーム共同体最高指導者の称号として用いられた。

問3 下線部 (C) について、この期間に世界で起きた出来事を1つ選べ。

- a. 中国で則天武后が帝位につき国号を周とした。
b. 南アフリカにモノモタバ王国が建てられた。
c. 朝鮮で王建が開城を都として高麗を建てた。
d. カール1世が教皇からローマ皇帝の帝冠を受けた。

問4 下線部 (D) について、次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. セルジューク朝を建てたトゥグリルク・ベクは、十字軍勢力を駆逐して、アッバース朝カリフからスルタンの称号を授けられた。
b. ブハラを都とするサーマーン朝は、トルコ系騎馬民族の奴隷を軍人として育成し、マムルーク軍団を組織した。
c. サラーフ・アッディーンによって建国されたアイユブ朝は、イクター制をエジプトに導入して経済を安定させた。
d. ニザーミーヤ学院はファーティマ朝によって建設されたイスラーム最古の教育機関であり、シーア派の最高学府となった。

問5 下線部 (E) について、次のイスラーム文学の作品名と作者名の組み合わせのうち適切なものを1つ選べ。

- a. 『シャー＝ナーメ』—— フィルドゥシー
- b. 『ルバイヤート』—— イブン＝シーナー
- c. 『世界史序説』—— ラシード＝アッディーン
- d. 『三大陸周遊記』—— ウマル＝ハイヤーム

問6 下線部 (F) について、ビザンツ帝国と関係する出来事を起きた順に並べたものはどれか。

- ① 聖像崇拜禁止令 ② ニコポリスの戦い ③ 『ローマ法大全』の編纂
- ④ クレルモン宗教会議 ⑤ 第4回十字軍
- a. ③—①—④—②—⑤ b. ①—③—②—⑤—④ c. ①—⑤—④—②—③
- d. ④—③—①—⑤—② e. ③—①—④—⑤—②

問7 下線部 (G) について、西アフリカに関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. ガーナ王国はムスリム商人との交易で栄えたが、ムワッヒド朝に滅ぼされた。
- b. ムラービト朝は、モロッコ中南部にマラケシュを建設して首都とした。
- c. 第4代正統カリフ・アリーの子孫によって、イドリース朝がモロッコに樹立された。
- d. サハラ交易では、ニジェール川流域で産出した金や砂漠地帯で採れた岩塩が取引された。

問8 下線部 (H) について、イベリア半島のムスリムに関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. アンダルスで生産された繊維製品や陶器が北アフリカやシリアに輸出された。
- b. コルドバに建設された大モスクはレコンキスタによって完全に破壊された。
- c. バスク地方に建国されたレオン王国が後ウマイヤ朝と激しい攻防を繰り返した。
- d. コルドバで生まれたイブン＝ルシュドは、中世ヨーロッパのスコラ哲学に影響を与えた。

問9 下線部 (I) について、インド洋交易とムスリム商人に関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. 中国では、ムスリム商人らによって清真寺（モスク）が建立された。
- b. インド洋ではジャンクと呼ばれる三角帆の縫合船が主に用いられた。
- c. ムスリム商人の商業用語としてアラビア語やペルシア語が広く用いられた。
- d. カリーミー商人は、インド商人から買いつけた香辛料をイタリア商人に販売した。

問10 下線部 (J) について、ムスリム商人の移住したアフリカ東岸の港市のうち、15世紀に鄭和の艦隊が訪れた港市を1つ選べ。

- a. モンバサ b. マリンディ c. ザンジバル d. キルワ

II 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

ロシアでは、最初の統一国家であるキエフ公国が13世紀にモンゴル軍の攻撃を受けて荒廃した後、14世紀になるとモスクワ公国が台頭した。イヴァン1世が大公の称号を得た後モスクワ大公国と呼ばれるようになった同国は、イヴァン3世の時代にロシアをほぼ統一した。しかし甥のイヴァン4世の死後血統が途絶え、政治的な混乱に陥った時期を経て、大貴族出身のミハイル＝ロマノフが1613年の全国会議でツァーリ（皇帝）に選ばれ、ロマノフ朝が開かれた。

17世紀末に帝位についたピョートル1世は、ロシアの近代化や強国化に努め、対外的には清、オスマン帝国と争い、またスウェーデンとの間で北方戦争を起こした。18世紀の後半にはエカチェリーナ2世が出て、啓蒙専制君主を自認し

たが、他方で領土拡大に努め、フランス革命などを契機に反動化した。19世紀に入っても勢力拡大政策は進められたが、クリミア戦争での敗北後に試みられた国内改革の不徹底もあり、近代化の遅れに抗する運動が激しくなった。日露戦争、^(H)
(G) 第1次ロシア革命を経て、第一次世界大戦の末期、1917年3月、皇帝の退位をもってロマノフ朝は終わり、同年11月、
(I) 社会主義政権が誕生した。その後1924年にソヴィエト社会主義共和国連邦憲法が制定された。^(J)

問1 下線部(A)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- ノルマン人リューリクにより建国されたが、早くからスラヴ化が進んだ。
- 大公ウラディミル1世はビザンツ皇帝ユスティニアヌスの妹と結婚し、ギリシア正教を国教とした。
- 自国におけるギリシア正教伝道のために、スラヴ語による典礼が行われ、キリル文字が考案された。
- 公国の統一は、大土地所有者となった諸侯の自立化傾向や分裂などにより、12世紀半ばには形骸化した。

問2 下線部(B)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- チンギス=ハンは、金、西遼、イラン高原のホラズム朝を滅ぼし、東西両方面での領土拡大に努めた。
- チンギス=ハンの死後帝位についた第3子オゴタイ=ハンはカラコルムを都に定めた。
- 第3代皇帝モンケ=ハンはワールシュタットの戦いでドイツ・ポーランド連合軍を破った。
- チンギス=ハンの孫アーリムは、アラル海東南部にコーカンド=ハン国を建てた。

問3 下線部(C)について、次の記述のうちイヴァン3世の事績として適切でないものを1つ選べ。

- ロシア諸公国を併合して国土統一を果たし、モンゴル族の支配から脱した。
- ビザンツ帝国最後の皇帝の姪との結婚によりツァーリを名乗り、帝国の紋章を継承した。
- カザン=ハン国を征服し、またイェルマークにシベリア地方を制圧させた。
- 法令集を編纂し、大公権力の強化と農民の農奴化を推し進めた。

問4 下線部(D)について、オスマン帝国とピョートル1世時代以降のロシアとの争いに関する次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- ピョートル1世が制海権を奪ったアゾフ海は、一時オスマン帝国の支配に戻ったが、1739年にロシアにより奪回された。
- 1801年、アレクサンドル1世はオスマン帝国支配下のクリム=ハン国を併合した。
- 1830年、ロシアはアドリアノーブルの戦いでオスマン帝国軍を破り、ギリシアの独立を助けた。
- 黒海の制海権やバルカン半島の支配権を巡り、ロシア=トルコ戦争が1877年に起こった。

問5 下線部(E)について、次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- ロシアはバルト海地域の覇者スウェーデンに対し、ポーランドやプロイセンとともに戦争を開始した。
- 当初優勢だったスウェーデンは、ポルタヴァの戦いでロシアに大敗し、その後カール12世が没するに及んでスウェーデンの敗北は決定的となった。
- ニスタット条約により、ロシアはイングリア、リヴォニア、エストニアなどを獲得し、バルト海東岸の覇権を握った。
- 戦争終結後ピョートル1世はネヴァ川河口に新しい都市ペテルブルクを建設し、モスクワから遷都した。

問6 下線部(F)について、エカチェリーナ2世の治世下の出来事として適切でないものを1つ選べ。

- ポーランド分割
- アラスカの購入
- プガチョフの農民反乱
- ラクスマンの日本への派遣

問7 下線部 (G) について、クリミア戦争の講和条約は次のどれか。

- a. サン＝ステファノ条約 b. パリ条約 c. ベルリン条約 d. ロンドン条約

問8 下線部 (H) について、日露戦争に関連した出来事を起きた順に正しく並べたものを選び。

- ① 奉天会戦 ② 対露宣戦布告 ③ 日英同盟調印
④ 第2次日韓協約締結 ⑤ ポーツマス条約 ⑥ 日本海海戦

- a. ②—⑥—④—①—③—⑤
b. ④—②—①—⑥—⑤—③
c. ③—②—①—⑥—⑤—④
d. ①—④—②—③—⑥—⑤
e. ②—①—③—⑥—④—⑤

問9 下線部 (I) について、次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. 1905年1月、労働者の平和的行進に対して軍が発砲した事件を契機に、全国でストライキや蜂起が続発した。
b. レーニンらにより1905年2月にロシア社会民主労働党が結成され、社会革命党とともに革命運動を主導した。
c. ニコライ2世は、ブレハーノフの進言により、十月勅令で、国会の開設、憲法制定などを公約した。
d. 1906年欽定憲法の発布後首相となったストルイピンは土地改革を推し進める一方、革命運動には厳しく対処した。

問10 下線部 (J) について、ソ連を承認するのが最も遅かった国はどれか。

- a. アメリカ合衆国 b. イタリア c. フランス d. 日本

III

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示にしたがって選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

北虜南倭に悩まされていた明は、16世紀後半に財政建て直しをはかった。(A)しかし、豊臣秀吉の朝鮮侵入や女真の台頭による軍事費増大で財政が悪化し、官僚の党派闘争も激化して、明の衰退は加速された。そして、1644年李自成率いる反乱軍が北京を占領して、明は滅亡した。

女真は、強力な軍隊で中国東北部を統一して、清を樹立し、自らを満州と称するようになった。清は北京へ進出して明に代わり中国を支配する王朝となり、国内を平定するとともに、外征を行って領土を拡大し、また南下してきたロシアとの間で国境を確定させた。(C)

清は、科挙や官制などについて明の統治機構や制度を基本的に継承したが、清独自の制度も創設した。(D)中央官庁の要職も、満州人と漢人を同数採用する満漢偶数官制を実施するなど、漢人を尊重する策を採用したが、その一方で満州人の髪型である辮髪を漢人に強制するなどの威圧策も用いた。さらに文化の面でも、懐柔策と威圧策が併用された。(E)また清は、チベット仏教の保護者となることで、チベット仏教を深く信仰するモンゴル人への影響力を強めた。(F)

清と周辺諸国との貿易は原則として明と同様朝貢貿易として行なわれ、朝鮮、琉球、タイ、ベトナムなどが宗主国の清に対して朝貢を行ったが、服属関係は名目的なものであった。(G)

18世紀後半に清は外国貿易を厳しく制限したが、欧米諸国からの門戸開放への圧力が強まり、19世紀半ばに起きたアヘン戦争・アロー戦争の敗北により、清は植民地化の危機におちいった。また、10数年続いた太平天国の乱は清の国力を衰退させた。(H)その後改革の動きもみられたが、19世紀末に孫文らの革命運動が始まり、日清戦争以後帝国主義列強による中国分割が進む中で、1911年からの辛亥革命によって清は滅亡した。(J)

問1 下線部 (A) について、万暦帝の下で財政改革を行った人物は誰か。

- a. 魏忠賢 b. 張居正 c. 顧憲成 d. 徐光啓

問2 下線部 (B) について、女真の統一と清の建国に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 建州女真のヌルハチが、女真諸部族を統一して、1626年に金（後金）を建てた。
b. ヌルハチは、モンゴル文字を基本にした女真文字の作成などの統一政策を進めた。
c. ホンタイジは内モンゴルのチャハル部を服属させた後、国号を金（後金）から清に改めた。
d. ホンタイジは軍事組織の八旗を創設し、その後モンゴル人、漢人の八旗も編成した。

問3 下線部 (C) について、清の国内平定や対外関係に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 乾隆帝は台湾の鄭氏を破り、台湾を清の版図に加えた。
b. 雍正帝は外モンゴル方面でのロシアとの国境を確定させた。
c. 順治帝は呉三桂などの三藩王が起こした反乱を平定した。
d. 康熙帝は東トルキスタンを「新疆」と名づけて支配下においた。

問4 下線部 (D) について、清の統治や税制に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 当初軍事機密保護を目的に設置された軍機処が、後に内閣に代わる政治の最高決定機関となった。
b. 銀の流通量増大にあわせ、土地税と人頭税を銀に換算して納税させる地丁銀制を実施した。
c. 理藩院は当初モンゴルのみを管轄していたが、後に青海、チベット、台湾なども間接統治する組織となった。
d. 旧明軍の漢人からなる正規軍として設置された緑営は、主として対外戦争に従事した。

問5 下線部 (E) について、清代の文化に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 儒学では、文献資料の解釈を重視する考証学が発展して、清代中期に黄宗羲・顧炎武らを輩出したが、末期には政治改革を目指す公羊学が盛んになった。
b. 清朝は漢人学者に『古今圖書集成』『四書大全』などの大規模な編纂事業を行わせたが、これらの事業は反清思想を排除するという面ももっていた。
c. キリスト教は、典礼問題がおき宣教師の布教活動が禁止され衰退したが、円明園を作ったアダム＝シャルなど朝廷に雇用された宣教師の活動は続いた。
d. 明代に続いて庶民文化が発展し、怪異譚を集めた文語短編小説集の『聊齋志異』や口語長編小説の『紅樓夢』『儒林外史』などの文学作品が生まれた。

問6 下線部 (F) について、チベット仏教に関連する記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. 7世紀に成立した吐蕃のソンツェン＝ガンポによりチベットに仏教が取り入れられ、チベット仏教の基礎が形成された。
b. 元では、フビライによるチベット仏教の保護を契機に信仰が広まったが、寺院建立などに国費を費やしたことが後の財政破綻の一因となった。
c. 14世紀末のツォンカパによるチベット仏教の改革により、飲酒・妻帯を禁止する厳格な戒律主義を唱える紅帽派（ゲルク派）が主流派となった。
d. モンゴルのアルタン＝ハンがチベット仏教の教主に贈ったダライ＝ラマという称号が、以後チベットの宗教・政治の最高権威者の尊称となった。

問7 下線部 (G) について、明・清時代の朝鮮・琉球・タイ・ベトナムに関連する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 朝鮮では、明から取り入れた朱子学が官学とされ、清に服属した後も両班層は朝鮮こそ儒教を根幹とする中華文明の継承者であるという意識を持ち続けた。
- b. 明への熱心な朝貢国として繁栄した琉球は、17世紀初めに島津氏の侵攻により薩摩藩の支配下に入ったが、明・清との冊封・朝貢関係も継続した。
- c. タイのアユタヤ朝は、16世紀以降アジア諸国やポルトガルなどのヨーロッパ諸国との交易で発展したが、ビルマのコンバウン朝に滅ぼされた。
- d. 15世紀後半に明から独立したベトナムの黎朝は、16世紀以降国内が分裂して弱体化し、18世紀後半に阮福映によって滅ぼされた。

問8 下線部 (H) について、アロー戦争時の1858年に清が英仏米露と結んだ天津条約の内容として、適切でないものを1つ選べ。

- a. イギリスへの九竜半島南部の割譲
- b. 開港場の増加
- c. 外国人の中国内地旅行の自由
- d. 外国公使の北京駐在

問9 下線部 (I) について、太平天国に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1851年に山西省で建国され、1853年には南京を占領し天京と改称して首都とした。
- b. 湘軍・捻軍などの郷勇やウォードなど欧米人が指揮する常勝軍に鎮圧され滅亡した。
- c. 支配地では、成人男性に土地を平等に配分する天朝田畝制度を發布し、辮髪・纏足を禁止した。
- d. キリストの影響を受けた宗教団体の上帝会により樹立され、漢人国家の復興を掲げた。

問10 下線部 (J) について、19世紀後半の洋務運動に関連する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 富国強兵をめざして兵器・紡績・造船などの工場が建設された。
- b. 同治帝治世下で比較的政治が安定した時期に運動が展開された。
- c. 政治体制や思想の近代化をめざしたが、西洋の科学技術の導入にとどまった。
- d. 曾国藩や左宗棠などの漢人官僚が中心となって運動を進めた。

IV

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

第二次世界大戦後の国際社会は、アメリカ合衆国を中心とする自由主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営とに分かれ、厳しい緊張関係に置かれた。米ソが直接交戦しないことによって冷戦と呼ばれた両陣営の対立は、第二次世界大戦で戦場となったヨーロッパでとくに深刻であったが、植民地支配を脱したアジアも巻き込まれていった。

1960年代になると、冷戦構造に変化が現れた。キューバ危機のように、東西両陣営の対立が激しさを増すことがあったものの、緊張緩和の動きが現れ、平和共存への転換が見られるようになった。その背景には、東西それぞれの陣営内での動揺があった。西側では繁栄を誇っていたアメリカ社会が不安定化した。また西ヨーロッパ諸国の復興がアメリカ合衆国の地位を相対的に低下させた。東側ではソ連からの自立をめざす動きが起こった。

他方で、東西のどちらの陣営にも属さない国々が台頭し、「第三勢力」を形成しつつあった。これらの国々は国際平和を実現しようとしたが、他方で対立・反目することもあった。また中東戦争に見られるように、国際社会は絶えず不安定であった。

1980年代末に米ソ両首脳による会談によって冷戦の終結が宣言された。それは国際平和の実現を意味しなかった。21世紀に入ってから地域紛争は止まず、^(I)内戦も後を絶たない。また^(J)環境問題に代表される地球規模の課題を抱えている。国際平和を実現し、安全な地球社会を確立するために、人類の叡智が問われていると言えよう。

問1 下線部(A)について、冷戦期の出来事を起きた順に並べたものはどれか。

- ① ベルリン封鎖
 - ② コミンフォルムの結成
 - ③ トルーマン＝ドクトリンの発表
 - ④ 北大西洋条約機構(NATO)の結成
 - ⑤ 経済相互援助会議(COMECON)の創設
- a. ②—①—③—④—⑤ b. ②—③—⑤—①—④ c. ③—②—①—⑤—④
d. ③—⑤—①—②—④ e. ④—①—②—③—⑤

問2 下線部(B)について、植民地支配を脱して独立したアジアの国と指導者の組み合わせのうち最も適切なものはどれか。

- a. カンボジア王国 —— シハヌーク b. パキスタン共和国 —— リー＝クアンユー
c. ラオス王国 —— ゴ＝ディン＝ジエム d. マラヤ連邦 —— ネ＝ウイン

問3 下線部(C)について、キューバの歴史に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ホセ＝マルティによって指導された1868年からの独立戦争、1895年からの十年戦争を経て、スペインの植民地支配を脱した。
- b. 独立に際してアメリカから要求されたプラット修正は、セオドア＝ローズヴェルトの善隣外交の一環として1934年に廃止された。
- c. カストロやゲバラが展開したゲリラ闘争によって、1959年にヴァルガス政権を打倒し、ラテンアメリカ初の社会主義国となった。
- d. アメリカ合衆国はアイゼンハワー大統領の下でキューバとの国交を断絶したが、2015年に国交を回復した。

問4 下線部(D)について、1960年代のアメリカ社会に関する記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. 上院議員のマッカーシーが「赤狩り」と呼ばれる反共扇動活動を行い、進歩的なりベラル派が弾圧された。
- b. キング牧師が指導する公民権運動の成果として、公立学校での人種隔離政策を違憲とするブラウン判決が挙げられる。
- c. ヒッピーと呼ばれる若者たちが登場し、既成文化を批判する「対抗文化(カウンター＝カルチャー)」を生んだ。
- d. ケネディ大統領は「偉大な社会」を提唱し、アポロ計画を進める一方で、「貧困との闘い」を宣言した。

問5 下線部(E)について、1970年代の西ヨーロッパ諸国に関する記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. 西ドイツでは社会民主党のアデナウアー首相が東方外交を始めた。
- b. フランスではミッテランが第5共和政における初の社会党出身大統領となった。
- c. イギリスでは保守党のサッチャーが女性としてはじめて首相となった。
- d. スペインでは独裁を行っていたサラザールが死去したことで王政が復活した。

問6 下線部（F）について、1968年の「プラハの春」と呼ばれるチェコスロヴァキアの自由化・民主化運動の指導者は誰か。

- a. ドプチェク b. ゴムウカ（ゴルムカ） c. ワレサ d. ナジ=イムレ

問7 下線部（G）について、「第三勢力」による会議・会談に関する記述として適切でないものを1つ選べ。

- a. 1954年に開かれたコロンボ会議に参加した中国、インドなど6カ国の首脳は、インドシナ戦争の早期解決などを宣言した。
b. インドのネルーと中国の周恩来が1954年に会談し、平和五原則を確認した。
c. 1955年にバンドンで行われたアジア=アフリカ会議には29カ国が参加し、平和十原則が宣言された。
d. エジプトのナセルらの呼びかけによって、1961年にベオグラードで第1回非同盟諸国会議が開かれた。

問8 下線部（H）について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. パレスチナ戦争とも呼ばれる第1次中東戦争は、国連のパレスチナ分割案を支持するアラブ諸国と、それに反発して建国を強行したイスラエルとの間で起こった。
b. スエズ戦争と呼ばれる第2次中東戦争は、エジプトによるスエズ運河の国有化にアメリカ・イギリス・イスラエルが反発したことによって起こった。
c. 6日間戦争とも呼ばれる第3次中東戦争の結果、イスラエルはシナイ半島・ガザ地区・ヨルダン川西岸・ゴラン高原などを占領した。
d. 第4次中東戦争に際して、中東産油国が石油戦略を発動したことにより、石油価格が急騰する第2次石油危機が起こった。

問9 下線部（I）について、多数派のフツ人と少数派のツチ人との間で起きた内戦はどれか。

- a. アンゴラ内戦 b. ルワンダ内戦 c. ソマリア内戦 d. コンゴ内戦

問10 下線部（J）について、環境問題に関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. 1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議での「人間環境宣言」に基づいて、国連開発計画（UNDP）が設立された。
b. 1987年にオゾン層の保護を進めるために、フロンガスを規制するモントリオール議定書が採択された。
c. 1992年にリオデジャネイロで開かれた「環境と開発に関する国連会議」（地球サミット）で、アジェンダ21計画が作成された。
d. 1997年に先進国に対して二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量削減を求める京都議定書が採択された。

[以下余白]